



瀬崎小だより6月

学校教育目標 心豊かでたくましい子

令和4年5月31日 児童数544人

草加市立瀬崎小学校

「まなびいっぱい・たくましさいっぱい・やさしさいっぱい」

ツバメ ～ささやかな愛で溢れたなら～

校長 奥村 勇

「♪きらめく水面の上を 夢中で風切りかける 翼をはためかせて
あの街へ行こう 海を越えて♪」

YOASOBI with ミドリーズ による「ツバメ」の冒頭の歌詞。4月から、お昼の放送で、さり気なく流しているので、なんとなく耳に残っている瀬崎っ子も多いはずです。（ちなみに、昨年の紅白でも歌唱。）「ツバメ」は、「SDGs」をテーマに制作された楽曲です。

「SDGs（持続可能な開発目標）」。今、世界で最も有名な言葉の一つです。

「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界の人々で2030年までに解決しよう！」という17の目標です。子ども向けには、「世界中で協力してよりよい地球を作っていこう！」と言うことになります。

「ツバメ」は、YOASOBIの曲ということで、ご多分に漏れず、原作小説が存在します。それは、「小さなツバメの大きな夢」という小説で、SDGsの思想が反映されています。物語自体は、ツバメと人間の共存の葛藤を描いたものですが、類似した状況は、世界中で起こっています。誰かが手に入れた豊かさの裏で、帰る場所を奪われている仲間がいます。みんなそれぞれ違う暮らしの形を守りたくて気づかないうちに、人は傷つけ合っています。同じ地球の仲間として、てぶくろの家（学校だより5月号参照）のように色とりどりの命が譲り合って仲良く暮らしていけないものかというのが物語の肝であり、同時に、SDGsのテーマの一つになっています。

「ツバメ」は、1番のサビの最後に、「僕にはいま何ができるかな」と、リスナーに問いかけています。

確かに、世の中にある数多の課題はちっぽけな一人がちょっと頑張ったところで解決することは叶いません。貧困や飢餓は解消できないし、気候変動も止められません。では、どうすれば？

「♪僕らに今できること それだけで全てが変わらなくたって 誰かの一日にほら少しだけ鮮やかな彩りを♪」

たとえ何かが変わるわけでもない小さな優しさだったとしても、世界の誰かの一時の幸せに寄り添うことはできます。世界中がそんなささやかな愛で溢れたなら何かが変わるはずです。同じ空の下、いつかきっと。

小さなツバメが大きな夢を教えてくださいました。